

## 「沈む金星」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

天球上の太陽の通り道を「黄道(こうどう)」という。太陽は、常にこの黄道上にある。太陽系に属する天体も、およそ黄道の近くにあるが、黄道とは位置が微妙ずれている。ずれる原因は、惑星によって公転軌道が少し傾いているからだ。しかし、水星から海王星までの惑星、それに彗星や小惑星、準惑星(冥王星など)も、ほぼ黄道上に見える。

黄道上で太陽から遠い位置にある外惑星(火星よりも外側の惑星)は、一晩中見えることもある。しかし、内惑星(水星と金星)は、太陽に近いので、限られた時間帯にしか見えない。金星の場合、太陽が沈んだ直後の西の空(宵の明星)か、日の出直前の東の空(明けの明星)ということになる。金星は真夜中に見えることは金輪際ない。昼間はずっと見えているが、太陽光が明るすぎて、目視が難しいのだ。



「黄道付近に集中する太陽系惑星」

2015, -2, -8 16:30 の西の空 (The Sky で計算)

太陽は完全に黄道上だが、惑星は黄道からずれている。

東の空から昇る金星(明けの明星)は、そのまま視線をずらさずに観察していると、太陽が昇ってきても見えることもある。実際に昼間の金星を写真に撮ることは可能だが、これは非常に難しい。西に沈む前の金星(宵の明星)を、太陽が沈む前に探し出すのは、更に困難である。

金星を撮影するなら、西に沈む一瞬である。非常に明るい天体なので、都会でもよく写る。長時間露光ができるカメラをお持ちなら、是非挑戦してみたい。



都会の空に沈む金星

東京都文京区

露光 10 分

撮影 ; C. Tanaka

沈む一瞬、夕日と同じようにわずかに赤みがかって見える。